

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2015
12月
No.126

特集 P2・3 第3次地域福祉推進計画づくり経過報告

宍粟市民の思いをカタチにするために
第3次地域福祉推進計画
づくりに取り組んでいます!



ひ孫と
いっしょ
シリーズ 125

一宮町 山田

ながの
長野 イチエさん(86歳)

こうき
○浩輝くん(7歳)

しょうた
○翔太くん(5歳)

ながの ゆうじ
長野 祐二さん・さつきさん

■長男・二男

藤原 誠 委員
(鷹巣活性化委員会事務局長)



助光 和雄 委員
(土万ふれあいの館館長)



小沼 経子 委員
(NPOさつき前理事長・
コミュニティハウス青い家代表)



段林 繁 委員
(宍粟市社協前副会長・
生栖集落営農組合事務局)



中野 剛志 委員
(ひまわりの家代表・
宍粟市男性介護者の会代表)



山根 勝 委員
(宍粟市社協理事・
波賀民児協会長)

宍粟市民の思いを カタチにするために



丸井 豊子 委員
(原さざゆりの会前代表)

第3次地域福祉推進計画 づくりに取り組んでいます！

梶本 みゆき 委員
(宍粟市社協理事・
宍粟市ボランティア連絡会理事)



松澤 賢治 委員長
(流通科学大学前教授)



船曳 順市 副委員長
(第2期地域福祉計画推進委員会
委員長・宍粟市老連会長)



志水 史郎 委員
(宍粟市社協理事・
宍粟市健康福祉部次長)



藤原 早苗 委員
(福田自治会前代表福祉委員)

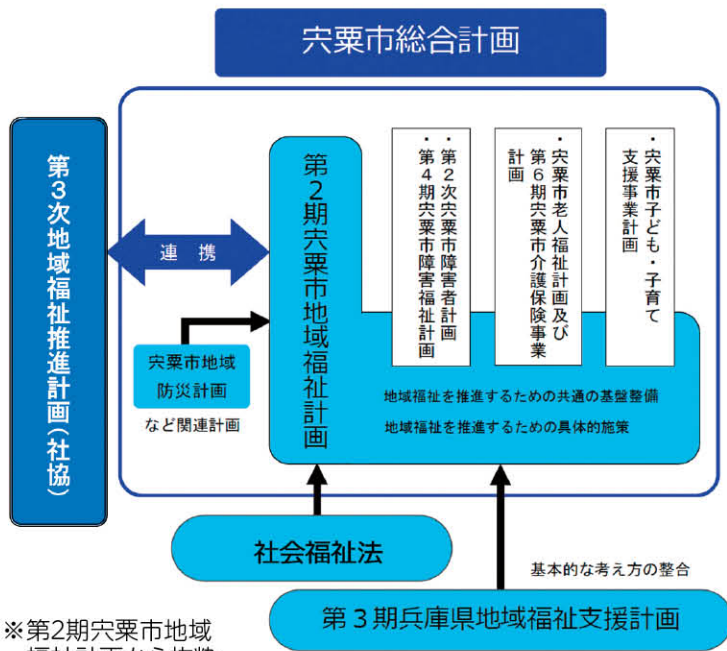
なぜ計画をつくるの？

だれもが安心して暮らせる福祉のまちづくりを目指して、6月から策定を始めた、「第3次地域福祉推進計画」(以下、3次計画)。
12月が過ぎ、全10回中6回の会議を終えた第3次地域福祉推進計画策定委員会は、折り返し点を過ぎて、地域の課題をまとめ上げていく段階に差しかかりました。佳境に入りつつある現在の状況について報告します。

近年、地域住民の抱える生活・福祉課題(困りごとや悩みごと)は、複雑化しています。こうした課題に対応していくには、公的なサービスのみならず、住民相互の助け合い・支え合い活動が必要となってきました。
だれもが安心して暮らせる福祉のまちづくりを進めるためには、地域住民一人ひとりの主体的な活動への参加が欠かせないのです。
そこで、地域住民をはじめ、地域で活動するさまざまな団体・機関などが連携・協働して、これからの宍粟市の地域福祉を推進していくための「地域福祉推進計画」を策定します。

民間の活動計画です

行政が策定する「宍粟市地域福祉計画」と連携し、地域住民やボランティア、NPO、福祉団体等の主体的な福祉活動および、公民協働のあり方を民間の立場から推進するため



の計画が「地域福祉推進計画」です。

その作成の責任は、社会福祉法で地域福祉の中核的な役割を果たす団体として位置づけられた「社協」にあります。

平成27年度は、3次計画の策定年度であり、2次計画を振り返るなかで、新たな生活・福祉課題を明らかにし、第2期大栗市地域福祉計画（平成27年6月策定）との整合性を図りながら進めていきます。

地域福祉推進計画は、地域福祉の推進について民間側から提言する計画です。行政計画との関係は左図のようになります。

だれがつくっているの？

策定委員には、ボランティア、民生委員、福祉団体、当事者組織、NPO団体、地域活動者、社協理事、行政等、さまざまな立場の個人や団体に参画いただいています。

委員長には、流通科学大学前教授の松澤賢治氏、副委員長には、第2期大栗市地域福祉計画推進委員会委員長の船曳順市氏を選出し、毎月1回委員会を開催しています。

また、委員会とは別に、社協の地域福祉担当者や介護職員で構成する作業部会を組織し、毎月2回程度、委員会での議論に必要なデータの収集や課題の分析などを行っています。

計画をつくる4つの視点

地域福祉目標「**だれもが安心して暮らせるふくしのまちづくり**」の実現のため、3次計画のすべての活動・事業展開において、次の4つの視点をもって計画づくりを進めます。

① 住民主体の視点

地域福祉の推進には、住民主体の活動が不可欠です。住民主体とは住民が権利主体となることです。この理念をすべての活動で保障します。

② 地域特性を活かしたまちづくりの視点

地域には個々の特性があります。それぞれの地域特性を活かし、地域自立生活の継続ができるための地域（まち）づくりを大切にします。

③ 総合相談・生活支援の視点

総合相談・生活支援とは、地域自立生活のためのさまざまな制度や活動を相互に関連づけることでつくる切れ目のない支援体制です。これを基本にした活動を展開します。

④ 連携と協働の視点

地域住民をはじめ、関係団体・専門機関・行政等、多様な活動主体と連携・協働することにより、大栗市全体の「地域福祉力」の向上を図ります。

3次計画は、平成28年5月の策定を目指し、委員会ですらに議論を重ねていきます。

（地域支援課 波多野好則）



第6回策定委員会では、3次計画の策定で大切な4つの視点と、計画の体系図（本会が取り組む活動項目）について協議しました（H27.11.26 一宮保健福祉センター）

やさしさ

このころの架け橋まごころベンチ

県立山の学校から石巻市へ

11月19日(木)、兵庫県立山の学校(山崎町五十波)の生徒15名が、東日本大震災の被災地へ手作りベンチ30脚を寄贈し、贈呈式に参加するため宮城県石巻市を訪れました。

このベンチは、生徒たちが被災された方々の心の復興を願い、学校で学んだ木材加工の技術を活かして地元の大栗杉で製作され、まごころベンチと名付けられました。

一つ一つに生徒のメッセージが刻まれており、利用されたお年寄り夫婦から感謝の言葉が寄せられるなど、すでに活用されています。

「今までにない先駆的なボランティアの形で心温まる贈り物と称賛いただきました。ベンチがこころの架け橋となり復興の応援になれば」と、同校副校長の出(ぐちはやと)勇人先生から、復興支援



式典では「このベンチに腰掛けて語り合い、心が癒されることを願っています」と、生徒代表があいさつ(宮城県石巻市中瀬公園)

への想いを聞きました。復興には、まだまだ支援が必要とされています。この大栗市からも、自分にできることで様々なカタチの支援が続いています。

(山崎支部 森井裕矢)

い

愛の100円屋台で地域貢献

一宮町安積の「俺のパチンコ」さん

11月22日(日)、一宮町安積にある俺のパチンコさんから善意銀行へ3万6533円を預託いただきました。

同店では、今年2月から「愛の100円屋台」を始められました。

この屋台は、お客さんに喜んでいただきたい、との思いで焼きそばやたこ焼などを100円で提供しています。

この日は、これまでの売上を募金として渡したい、と社協へお申し出をいただき伺いました。

「屋台にはお客さんだけでなく、近隣の住民の方も来られます。募金で地域貢献にもつながって嬉しいです」



「愛の100円屋台」は大きなのぼりが目印です

と店長の松浦洋一さん。

俺のパチンコさんの募金は、善意銀行で預かりしました。

善意銀行は、みなさまの善意を福祉のまちづくりにつなぐ「善意の橋わたし役」です。

地域の企業や商店が「地域のために役立つことをする」ことが今とても大切になっています。こうした善意銀行への募金活動も地域貢献です。

これからも、善意銀行を応援して下さい。

(本部・一宮支部 三宅あゆみ)

善意銀行…地域福祉を進める本会の貴重な財源です。預託金の全額を地域福祉活動(配食・移送サービス、ボランティアグループへの助成金など)に活用していますが、近年預託額が減少しています。みなさんの善意をお寄せ下さい。(昨年度預託金13,020,290円)

は
が

自分たちの村を本気で想う

谷自治会 谷郷づくり推進委員会

当日は、姫路市や加古川、京都など市外からの参加者もあり、じゃがいもや大根の収穫体験や地元食材の試食・販売などで、にぎわいました。

自治会長の黒田孝志さんは、「今の取り組みを土台として、これから自分たちで活気ある村づくりを継続させていく事が大切」と

11月22日(日)、谷自治会の谷郷づくり推進委員会が初の企画として「秋のふれあい収穫祭」を開催し、約200人が訪れました。

同委員会は、県の助成を活用し「自分たちの村をさびれるようにしたくない」との思いで、今年の4月に自治会役員・女性部・ボランティアで立ち上げられました。



「おいしい!」谷村おこしの会によるブルーベリーケーキの試食(谷ブルーベリーの里周辺)

今後に対する思いを話されました。

また、委員会では、波賀小学校の児童を対象にブルーベリー狩りや炭焼き体験を行うなど、子どもが地域で学ぶ機会を設けています。

村おこしのきっかけは「何とかしないと」という住民の思いでした。想いを行動へ変えて行くことでずっと住み続けたい地域へと、また一歩近づいていきます。

(波賀支部 平 有利菜)

ち
くさ

ひとり暮らしのみなさんを「招待

千種地域福祉推進委員会

11月21日(土)、地域のつながりを深める機会として「こころあつたかカフェ」を開催し、75歳以上のひとり暮らしの方を招待しました。

あつたかカフェは、千種地域福祉推進委員会(千種支部の福祉活動を進める関係者)で内容を話し合い準備を進め、当日は24人が参加しました。

推進委員と支部の職員がスタッフとして協力し、会場準備や受付、そして各テーブルのお世話係として運営に関わり、昼食後には、お茶を飲みながら、生活の中での心配や不安なことなどを語り合いました。

推進委員(民生委員)の安東以左子さんは、「頑張っておられるみなさんの話を聞くことができて良かった」と話され、このカフェを通して、つながりが深まり、元気がもらえるこの機会の大切さをスタッフみんなで再確認しました。



「よう来てくれちゃったねえ」談笑しながら受付する推進委員(左写真) 猶原委員長(左端)に続き、順次自己紹介(右写真)。次回は、来年3月頃開催予定



し、千種の福祉のまちづくりを推進委員や職員が協働し進めていきます。

(千種支部 山本めぐみ)

追悼の灯り 今年も 竹筒・ロウソクを神戸へ

宍粟市ボランティア・市民活動センターでは、宍粟市ボランティア連絡会の協力をいただき、各支部で「阪神淡路大震災1.17のつどい」へ届ける竹筒とロウソクづくりを行いました。

作製した竹筒600本、ロウソク1,200個を神戸へ届けます。

竹筒づくり



ボランティアグループ「ふるべりい会」の協力で竹を切り出し、加工しました
(11/18 一宮)

ロウソクづくり



色とりどりのロウソクが出来上がりました
(11/26 千種)

第4期生
募集中

チューボーですよ! セカンドライフ 応援セミナー



昨年のセミナーの様子

料理を学んで
充実した
シニアライフを

あなたの大切な時間を、自分のためや家族のため、そして地域のために有効に活用しませんか?今回は料理を通じて、自分ができることをいっしょに考えてみましょう。

	日時・会場	内容
1	1月20日(水) 13:30~15:30 宍粟防災センター	人生2つの10万時間の楽しみ方・活かし方を学ぼう
2	1月27日(水) 10:00~12:30 千種保健福祉センター	初めてでも大丈夫!みんなで巻きずしを作ってみよう
3	2月10日(水) 10:00~12:30 メイプル福祉センター	防災や災害について学び炊出し体験をしてみよう
4	2月17日(水) 10:00~12:30 一宮保健福祉センター	配食サービスのお弁当をみんなで作ってみよう

対 象:おおむね50歳以上の方

受講料:全4回通し/1,500円(材料費込)

定 員:20名 問合せ:本部72-8787

ボランティア
センター日誌

～視覚障がい者の サポート方法を学ぶ～



介助体験
「横断歩道を渡る時はとても怖いんです。声をかけてもらうと助かります」と大島さん

11月25日(水) お出かけ支援ボランティア講座

お出かけ支援ボランティア講座(全3回)の2回目を行いました。

この日は、視覚障がい者の大島茂(波賀町)さんから体験談をお聞きし、実際の介助方法については、本会のホームヘルパーが説明しました。

受講生からは「介助する側、される側の信頼関係が必要だと思った」「運転中に白杖を持っておられる人を見かけたら、止まろうと思った」などの感想が聞けました。

講座終了後には、介助ボランティアとして活躍されることを期待します。

(波賀支部 坂本幸子)

私たちの作った CDやテープを 聴いて下さい!!



朗読ボランティア「ふきのとう」と「デイジー宍粟」では、毎月発行の「こんにちは社協です!!」や「広報しそ」などを録音し、編集して「声の便り」を作製しています。

目の不自由な方や市内の福祉施設など、たくさんの方に利用していただきたいと思いますので、遠慮なくご連絡下さい。「声の便り」をお届けします。



写真:ふきのとう山崎による広報吹き込みの様子
各支部で朗読ボランティア「ふきのとう」による声の便りが作製されています

△問合せ:各支部